

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間（平成17年10月1日～平成18年3月31日）におけるわが国経済は、原油価格の動向等に留意する必要があるものの、設備投資や個人消費の増加、企業収益や雇用情勢の改善等により、景気が回復してまいりました。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資が緩やかに増加しており、情報サービス業の売上高は前年同期（平成16年10月1日～平成17年3月31日）と比べ増加傾向にあります。また、設備投資の増加等の影響もあり、パソコンの国内出荷台数が前年同期を上回る等、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きは比較的良好と言える状況となっております。また、ブロードバンド化を含め、インターネット環境の普及が着実に進展しております。特に携帯電話につきましては、当中間連結会計期間末（平成18年3月末）にはインターネット接続の契約数が7,900万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、携帯電話向けに提供いたしております無料版「乗換案内」の検索回数は平成18年3月には月間8,600万回を超える等、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。

このような環境の中で、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は1,160,190千円（前年同期比24.3%増）、営業利益は313,680千円（前年同期比35.1%増）、経常利益は314,052千円（前年同期比35.4%増）、中間純利益は159,654千円（前年同期比33.3%増）という経営成績となりました。

売上高につきましては、主として、乗換案内事業における売上高が1,122,713千円（前年同期比24.5%増）と順調に推移したことにより、前年同期と比べ増加いたしました。営業利益、経常利益及び中間純利益につきましては、売上高の増加による影響に加え、事業の性質上変動費の割合が少ないこと等により、売上高の増加に伴い、売上高に占める差引売上総利益の割合が54.3%となり、前年同期と比べ3.8ポイント増加したこと等の影響により、前年同期と比べ大きく増加いたしました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

乗換案内事業は全体として、売上高・営業利益ともに順調な推移となりました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」は順調に会員数が増加しており、前中間連結会計期間末（平成17年3月末）には合計で約28万人でありましたが、当中間連結会計期間末（平成18年3月末）には38万人を超えております。その結果、売上高も前年同期と比べ大きく増加しております。また、広告につきましても、携帯電話向け無料版「乗換案内」へのアクセスが増加すると同時にクライアントの獲得も順調に進み、売上高も前年同期と比べ増加いたしました。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同期と比べ売上高が減少いたしております。

す。これは主に、顧客との直接契約によるバージョンアップの販売が減少しているためであります。

「乗換案内インターネット3PLUS」等の法人向け製品の売上高につきましては、前年同期と比べやや減少しております。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」及び携帯電話向け「乗換案内NEXT」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しており、売上高は前年同期と比べ大きく増加しております。

以上の結果、売上高1,122,713千円（前年同期比24.5%増）、営業利益457,908千円（前年同期比38.9%増）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、従来から携帯電話向けゲーム「ハムスター倶楽部」等の提供を行っており、その売上高は前年同期と比べ増加しております。また、当中間連結会計期間から、パソコン向けインターネットや携帯電話、DVD等のメディアによる映像コンテンツ提供等の事業を開始いたしており、こちらも前年同期と比べ売上高を増加させる要因になっておりますが、当中間連結会計期間の時点では利益の獲得には至っておりません。

以上の結果、売上高22,159千円（前年同期比82.2%増）、営業損失47,838千円（前年同期は14,121千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発等につきましては、売上高が減少しているものの営業費用を削減しており、その結果、売上高15,317千円（前年同期比24.8%減）、営業利益4,836千円（前年同期比104.6%増）となりました。

なお、上記の事業の種類別セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

（2）キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、前連結会計年度末と比べ22,932千円増の1,205,448千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは98,065千円の収入（前年同期比56.9%減）となりました。前年同期と比べ大きく変動している主要因は、税金等調整前中間純利益が80,204千円増の305,713千円となる一方、売上債権の増加額が63,588千円増え67,257千円となったこと、及び法人税等の支払額が82,845千円増の148,364千円となったこと等であります。売上債権の増加額が増えた要因は、2,3月の売上高が多かったこと等であります。法人税等の支払額が増加した要因は、前連結会計年度の利益額がそれ以前に比べて大きく増加したこと等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは54,930千円の支出(前年同期比49.6%増)となりました。前年同期と比べての変動の要因は、無形固定資産の取得による支出が23,528千円増の31,757千円となったこと等であります。これは、「乗換案内」に関する市場販売目的ソフトウェアの開発が増加したことや、映像関連の事業を展開するに伴い、映像コンテンツの製作・購入を行っていることによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは20,561千円の支出(前年同期比82.9%増)となりました。前年同期と比べての変動の要因は、利益の増加及び利益配分方針の明確化に伴い、1株当たり配当金を平成16年9月期の2円から平成17年9月期には4円に倍増したこと等により、配当金の支払額が10,051千円増の20,561千円となったこと等であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	869,065	+16.4
マルチメディア事業	27,178	+132.3
その他	15,317	△24.8
合計	911,561	+17.1

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 セグメント間取引については相殺消去しております。

(2) 受注実績

当中間連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	55,595	△12.7	50,150	△1.5
マルチメディア事業	—	—	—	—
その他	9,249	△39.1	53,147	—
合計	64,844	△17.8	103,297	+103.0

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2 セグメント間取引については相殺消去しております。
 3 受託開発等以外の製品については見込生産を行っております。
 4 当中間連結会計期間の受注残高にはゼストプロ株式会社及び有限会社プロセスの受注残高を含んでおり、それ以前の受注残高と連続性がありません。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	1,122,713	+24.5
マルチメディア事業	22,159	+88.6
その他	15,317	△24.8
合計	1,160,190	+24.3

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2 セグメント間取引については相殺消去しております。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、技術革新、業界標準及び顧客ニーズの変化、新技術及び新サービスの登場等が激しい情報通信業界において、主に事業を展開しております。その中で、新しい技術への対応を行い、競争力を確保するため、的確かつ効率的な研究開発活動を経常的に行うよう努めております。

当中間連結会計期間の研究開発活動は主に、技術部、開発部及び新規事業部にて行ってまいりました。さらに、シナジー効果の活用を図るため、必要に応じプロジェクトチームを編成し、研究開発活動を行ってまいりました。その結果、一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、23,678千円となりました。

事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

まず、パソコン向け「乗換案内」について、新製品の研究開発（Windows版及びMac版）を行ってまいりました。そのうちMac版については、「乗換案内」（Windows版及びMac版の同梱製品）において提供を開始しており、Mac専用の「乗換案内MacX」としても発売開始に至っております。

携帯電話向けの「乗換案内」については、地図の表示を行う携帯電話向けアプリケーションについての研究開発を行い、iモードの「乗換案内NEXT」上で「乗換地図アプリ」として提供を開始しております。

また、各種地域情報の提供等に関する研究開発を行い、パソコン向けインターネットの「乗換案内」においてサービスの提供開始に至っております。

上記の研究開発活動等の結果、乗換案内事業における研究開発費は20,801千円となりました。

(マルチメディア事業)

携帯電話向けゲーム「ハムスター倶楽部」のEZウェブ版及びボーダフォンライブ！版について、内容の大幅なリニューアルを行ってまいりました。当中間連結会計期間において作業が完了し、サービスの提供を開始いたしております。

上記の研究開発活動等の結果、マルチメディア事業における研究開発費は2,876千円となりました。

(その他)

特記すべき研究開発活動はありません。